

# 情報学ワークショップ 2016 論文フォーマット

情報 太郎 情報 花子

情報大学情報学部

## 1 はじめに

情報学ワークショップは、東海地区を中心として大学・企業等の情報技術に関する最新の研究成果を発表すると共に、学生・研究者の交流の場を提供することを目的としております。第14回情報学ワークショップは、平成28年11月27日に愛知県立大学で開催することになりました。本年度はすべてポスター発表で行うことになりました。また、応募に際しては、300字の抄録のみでの申込となります。研究論文の作成は希望者のみとし、提出いただいた論文は例年通りプログラム委員会により評価されます。さらに提出論文の中から特に優秀な論文を選考しこれを表彰します。情報学分野の情報交換の場として多くの方のご参加を期待しております。

本資料では情報学ワークショップの研究論文の作成方法を示します。発表者の方は、この資料に準拠して研究論文の原稿を作成していただくようお願いいたします。ただし、それぞれの専門分野で優先すべきフォーマットなどがありましたら、そちらのフォーマットに従うマイナーチェンジも結構です。

昨年度までの情報学ワークショップ論文集をお持ちの方は参考にしてください。

## 2 提出いただくもの

### 2.1 論文審査を希望する場合

抄録(300文字)と研究論文(A4・4ページ以上)を提出して頂きます。さらに、審査員からの審査コメントを論文に反映させた上で投稿してください。

### 2.2 論文審査を希望しない場合

抄録(300文字)のみを申込時に提出して頂きます。

## 3 論文本体のフォーマット概要

基本的にこのフォーマットに準拠していただきますが、もちろん書きやすいように、読みやすいようにマイナーチェンジして頂いてもOKです。ただし最終的に書式を実行委員会・プログラム委員会で統一させて頂く場合があります。なお、この $\text{\LaTeX}$ 版のテンプレートは、MS-Word版と異なる点もあります。以下の各項目を目安として考えていただければと思います。

- (1) 日本語タイトル、著者名、所属、最初に1段組みで書きます。文字サイズは、日本語タイトル12ポイント、日本語の著者名と所属10.5ポイントです。この間の行間は15ポイントの固定値になっています。
- (2) 本文は2段組みで、フォントは8ポイントで行間は1行です。この結果、1ページがおおよそ28文字×57行×2段となります。
- (3) 各章の見出しは10ポイント、各節の見出しは9ポイントとしています。
- (4) このようなフォーマットで論文を作成していただきます。論文本体は4ページ以上とし枚数制限はありません。
- (5) マージンは上下が3cm、左右が2cmとします。

(6) MS-Word版では、文字フォントは、タイトル、著者名、所属、見出しの部分が、MSゴシックとArialを使用しています。また本文は、MS明朝とCenturyです。ただしフォントについては特に制限はいたしませんので、独自の形式で論文を作成してかまいません。

(7) ページ番号をつけしないでください。

(8) この資料は、 $\text{\LaTeX}$ の範囲内で、おおむねフォーマットに従っているつもりです。

## 4 提出締め切り

WiNF2016ウェブサイト(<http://www.ist.aichi-pu.ac.jp/winf2016/>)にあります期限までに、フォーマットに準拠した研究論文のPDFファイルをWiNF2016ウェブサイトの「SUBMISSION」ページから投稿してください。なお、研究論文のPDFファイル名は「winf2016-paper\_###.pdf」(###は発表申込時に発行される申込番号)としてください。よろしく願います。

## 参考文献

- [1] 河辺 義信, 真野 健, 櫻田 英樹, 塚田 恭章: 電子投票プロトコルに対する無証拠性の定理証明, 情報処理学会論文誌, Vol. 52, No. 9, pp. 2549-2561 (2011).
- [2] Ichiro Hasuo, Yoshinobu Kawabe, Hideki Sakurada: Probabilistic anonymity via coalgebraic simulations, Theoretical Computer Science, Vol. 411, No. 22-24, pp. 2239-2259 (2010).